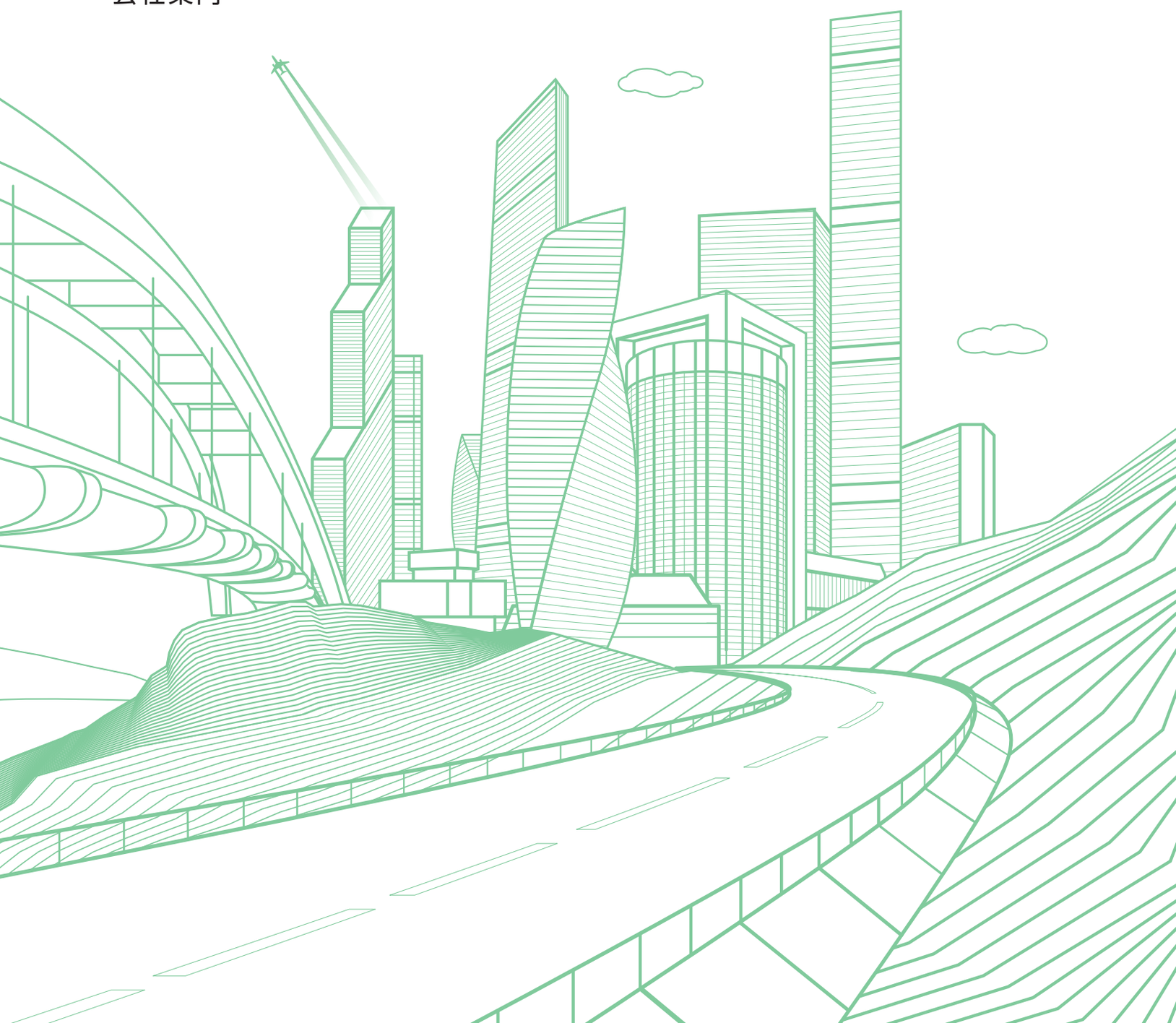
人・夢・技術グループ

株式会社 長大

CHODAI

company brochure

会社案内



人と夢を技術でつなぐ。

長大の歩みは、橋梁の設計からはじまりました。
橋で地域と地域をつなぎ、「人」も「夢」も「技術」も
いまにつなげてきました。
いま長大は、より良い未来を創る建設コンサルタントとして、
多様な社会のニーズを的確に把握し、
国内外で磨いてきた知識と技術を駆使しながら、
人々の「夢」を明日につなげています。
「人・夢・技術」
それは、創業以来、変わることのない長大の理念です。

経営理念

人・夢・技術

社員の創造性と、相互の信頼を育み、
美しく、快適な地球環境づくりに邁進する世界の技術と
頭脳の会社を創造する。

生活基盤のあらゆるサービスを提供できる コンサルタントを目指します。

私たちは、「人・夢・技術」を合言葉に、豊かな自然を生かしながら人が「夢」を持って暮らすことのできる生活基盤を創造し、支えるために技術の研鑽に励んできました。
そして、この技術を活用して、さらに安全に、安心して暮らせる社会の実現に向けて、あらゆる生活基盤に関わるサービスを提供できる企業へと変貌しています。
私たちの生活は、自然と共にあります。「人」は、自然とうまく付き合うことで、生きられます。長大は、自然とうまく付き合うこと、それが生活基盤整備だと考えています。防災や生活施設整備など大自然との直接的な関わりだけでなく、高齢化社会での移動支援、途上国での病院・学校整備支援、低炭素社会構築のためのエネルギー開発支援など、世界中の人が自然の中で、安全で安心な暮らしができること、「夢」を持って生きられること、そのためのサービス提供が私たち長大の責務だと考えています。
長大は、生活基盤の計画から運用まですべての段階で、人と自然に関わる様々なサービスを提供する技術力を有しています。この技術力をもって美しく快適な環境づくりに邁進してまいります。
この「人・夢・技術」という言葉は、2021年10月1日に発足した純粋持株会社の社名「人・夢・技術グループ株式会社」へと引き継がれました。長大はこのグループ会社の中核企業として、さらなる大きな夢の追求、幅広い技術の探究を目指してまいります。

代表取締役社長　**野本 昌弘**

1960

創設の時代

1968年(昭和43年)
・「有限会社長大橋設計センタ」設立。技術力を第一とする本来のコンサルタントを目指し、コンサルタント登録
・「株式会社長大橋設計センター」に商号変更

1970

総合建設コンサルタントへ

1970年(昭和45年)
・本州四国連絡橋の本命Dルート18kmの設計を受注。その後、明石海峡大橋をはじめ我が国の長大架橋ほとんどを当社で手がける
1971年(昭和46年)
・環境アセスメント分野の事業開始
・科学技術専用の大型汎用コンピュータを導入
1973年(昭和48年)
・交通計画分野の事業開始
1975年(昭和50年)
・海外業務受注開始
・情報サービス分野の事業開始
1976年(昭和51年)
・河川治水計画分野の事業開始

1980

都市・地域計画分野へ

1980年(昭和55年)
・都市・地域計画分野、道路分野の事業開始
・「一級建築士事務所」の資格取得
・ソフトウェア-パッケージ開発・販売分野へ進出
1982年(昭和57年)
・道路情報分野の事業開始
1984年(昭和59年)
・「株式会社長大」へ社名変更
1985年(昭和60年)
・筑波研究学園都市に「E&Cセンター」(現総合研究所)を開設
1986年(昭和61年)
・地質調査事業者登録

1990

IT化・グローバル化の進展

1991年(平成3年)
・ITS分野の事業開始
1996年(平成8年)
・東京証券取引所市場第二部に上場

2000

グローバルなマネジメントの時代へ

2000年(平成12年)
・携帯電話による道路情報の提供開始
2001年(平成13年)
・国内での公共事業などに関するPPP/PFI事業開始
2002年(平成14年)
・(株)長大テックを設立
2005年(平成17年)
・NHK地上波デジタル・データ放送による道路情報の提供開始
2007年(平成19年)
・順風路(株)、(株)長大構造技術センターを設立
2009年(平成21年)
・エコプロダクツ事業の開始

2010

そして新たな創造の時代へ

2010年(平成22年)
・建築事業へ本格参入
2011年(平成23年)
・基礎地盤コンサルタンツ(株)をグループ会社化
2012年(平成24年)
・フィリピン国小水力発電事業の開始
2013年(平成25年)
・長大コリアを設立
・港湾、河川防災分野の事業開始
2014年(平成26年)
・長大基礎地盤ベトナムを設立
2015年(平成27年)
・鉄道分野の事業開始
・ウィラットマン・長大・インドネシアを設立
2017年(平成29年)
・東京証券取引所市場第一部指定承認
・長大フィリピンコーポレーション(現地法人)を設立
・「くるみん認定」取得
2018年(平成30年)
・創立50周年
・3社共同保育所「かけはし保育園」開園
・(株)長大キャピタル・マネジメント設立
2019年(令和元年)
・「長期経営ビジョン2030」策定

2020

NEXT50の「夢」の実現を目指して

2020年(令和2年)
・「プラチナくるみん認定」取得
・イーグルペイ(株)と資本業務提携
・(株)ニックスと資本業務提携
2021年(令和3年)
・(株)エフェクトをグループ会社化
・エアモビリティ(株)と資本業務提携
・長大台湾(現地法人)を設立
・持株会社、人・夢・技術グループ(株)を設立
・「北海道更別村SUPER VILLAGE構想」の展開に伴い更別営業所を開設
2022年(令和4年)
・「更別村スーパービレッジプロジェクトチーム」を発足
・比国人材紹介・派遣会社2社と資本業務提携

**持続可能な
グローバル社会を
創造する企業へ**

詳細はコチラ

「夢」を新たに、さらに進化します。

私たち長大は創業期より、社員一人ひとりの「夢」を原動力として成長してきました。この思いを大切に、次なる50年の新たな夢の実現を目指そうと、「長期経営ビジョン2030」を策定。2030年をマイルストーンとする「ビジョン」（私たちが目指す姿）とそれを実現するための「戦略」を掲げています。

自らが変革し、新たな企業の姿を目指す

人・夢・技術グループ全体で売上高600億円、営業利益50億円を掲げる長期経営ビジョン2030を実現するために、そしてその先のNEXT50の夢に向けて、私たち人・夢・技術グループはいま「新たな企業の姿」を目指しています。

「エンジニアリング・コンサルティングファーム」「サービスプロバイダ」「イノベータ」それぞれの役割を強化し、自らが変革することで、持続可能なグローバル社会を創造する企業へと成長します。このスタートラインとアクションこそが、人・夢・技術グループの未来に向けたベクトルの推進力となり、夢の実現につながると確信しています。

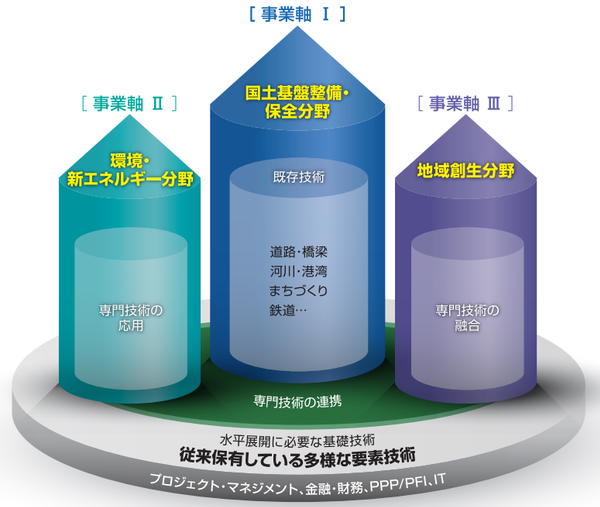
詳細はコチラ

持続可能な社会を視野に、事業創造型のビジネスを推進します。

より進化したコンサルタントを目指して、長大は「国土基盤整備・保全」「環境・新エネルギー」「地域創生」の3つの事業軸で未来を切り拓きます。長大には、幅広い事業に水平展開できる高品質の専門技術と、ITをはじめPPP/PFI、金融・財務などの多彩な要素技術があります。これらの強みを中核に、数々のインフラ事業を成功させてきたマネジメント技術を発揮し、各プロジェクトにふさわしい企業とのアライアンスや専門能力を持つプレーヤーの組織化を進め、事業創造型のビジネスを推進します。

また、国連が掲げるSDGs（持続可能な開発目標）は、元来、長大の事業活動そのものといっても過言ではありません。長大はその先駆者として、これからもインフラサービスと企業活動両面で持続可能な社会形成に取り組んでまいります。

長大の目指す成長イメージ



詳細はコチラ

事業軸II 環境・新エネルギー

世界的な成長市場を舞台に、様々な建設プロジェクトで培ったノウハウを活かした新たな環境ビジネス、小水力発電・バイオマス発電等の新エネルギーなど、社会環境改善に関わるソリューション提供事業を推進します。

SDGsへの対応

事業軸I 国土基盤整備・保全

既存の土木部門を軸として専門技術を融合させながら、インフラの補修補強・維持管理や防災・減災対応、交通システムの高度化（ITS）、ビッグデータの活用、道路の運営などサービスプロバイダの方向性を加えた事業を展開します。

SDGsへの対応

事業軸III 地域創生

国内外の国土基盤施設に関する問題・課題に対し、地域全体を面的に捉えて地域の再生・再編・創生の視点から総合的かつ複合的に解決策を探ります。従来の建設コンサルタントの役割を拡大し、包括的なサービスを提供する事業を推進します。

SDGsへの対応

インフラと建設コンサルタント

インフラとは?

私たちの安全・安心で便利な暮らしを支える電気・水道・ガスをはじめ、道路や橋、港湾、河川、空港、鉄道、病院や学校等の公共施設など、生活や産業の基盤になるものです。身の回りにある生活を支えるすべてのものをインフラと捉えることもできます。

建設コンサルタントとは?

道路や橋の設計、交通に関する諸施策、防災など社会インフラや公共サービスに関する課題や問題を解決します。再生可能エネルギーや環境保全にも取り組みます。

インフラができるまでには大きく5つの段階があります。建設コンサルタントは、そのすべてに関与する建設事業の総合的なアドバイザーです。

調査 → 計画 → 設計 → 施工 → 運営維持管理

長大はその先へ——

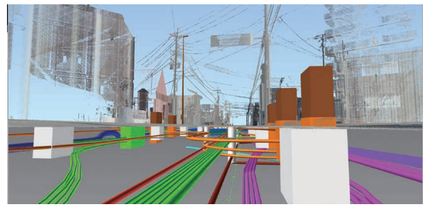
インフラの整備だけでなく、多様なサービスを提供する「サービスプロバイダー」としての役割も担っています。長大が目指している究極の姿は、人々や社会の期待に応え、より良い未来を創る"建設的"コンサルタントです。

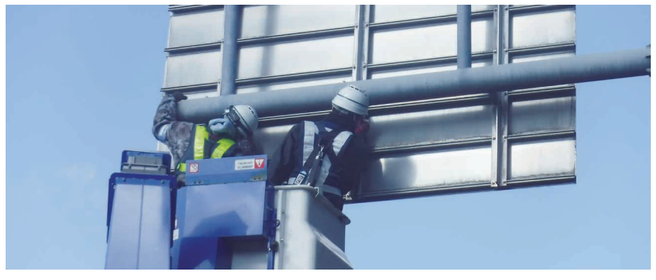
国土強靭化分野

インフラの老朽化、長寿命化、国土強靭化…。
日本が直面する課題の解決に貢献しています。

橋梁やトンネル、道路などの構造物・施設は、経年変化や想定外の環境変化などにより劣化や機能低下が起こります。長大は、インフラの老朽化対策、長寿命化の分野に積極的に参画。自然災害やインフラの老朽化が引き起こす事故などから国民の生命と財産を守る国土強靭化に寄与しています。また、国が推進する「i-Construction」※に対応し、点検ロボットやドローンによる新たな点検手法の構築などに取り組んでいます。

※ i-Construction: 建設現場の生産性を向上させ、魅力のある建設現場をめざす取り組み。





1 | 2
3 | 4
5 | 6

1 3Dモデルを活用した電線共同溝設計
2 生月大橋の早期復旧に向けた調査・検討・設計・施工管理等
3 新阿蘇大橋の計画・設計
4 斜張橋点検ロボットVESPINAE
5 ドローンによる橋梁の点検
6 標識柱点検(道路附属物点検)

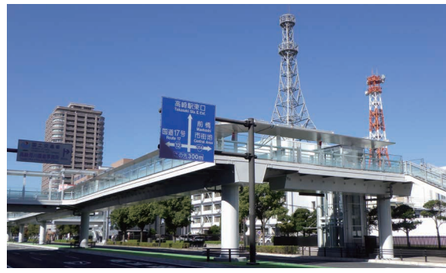
詳細はコチラ

橋梁分野

日本各地で培った橋梁設計で世界をリード。
先端技術で生産性向上にも取り組んでいます。

橋梁設計は長大の原点といえる事業であり、本州四国連絡橋をはじめとして日本各地の長大橋や特殊橋の設計に携わってきました。近年では、「i-Construction」に対応し、BIM/CIM※を活用した設計業務の効率化・高度化を推進しています。

※ BIM/CIM: 建設事業にICTツールと3次元データモデルを導入・活用し、事業全体の効率化を図る取り組み。



1 | 2
3 | 4
5 | 6

1 三島スカイウォーク
2 高崎駅(西口・東口)ペデストリアンデッキ
3 七色高架橋
4 第二東名 富士川橋
5 レインボーブリッジ
6 岩城橋

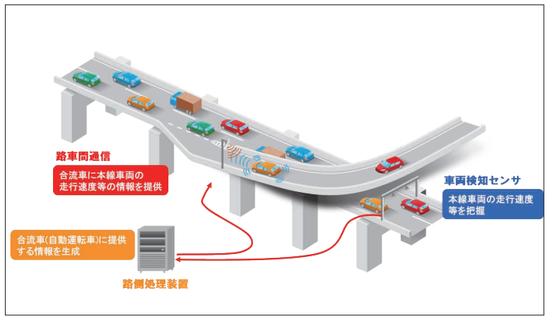
詳細はコチラ

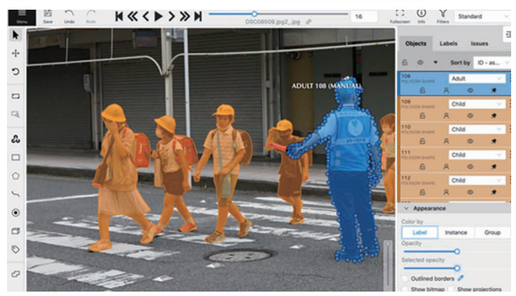
道路・交通・ITS分野

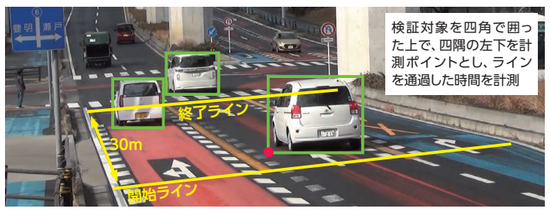
自動運転、ICT、IoT等の最新技術の研究を通じ、新たな道路環境のあり方、地域創生に資する地域公共交通網のあり方を追求しています。

長大は、道路整備計画の立案・道路整備効果の分析・交通需要マネジメントの検討・道路交通に関わる各種調査などに取り組んできました。また、ITS分野の先駆者として、交通実態の分析、自動運転・MaaS※の社会実装に関する研究などに積極的に参画してきました。こうして培ったビッグデータ解析技術、AI技術、IoT技術等を用いて、新たな道路環境のあり方を追求していくとともに、持続可能な地域公共交通網の実現、次世代に向けたまちづくりに貢献していきます。

※ MaaS：Mobility as a Serviceの略。シームレスな移動を目指す新たな交通・移動に関する概念。







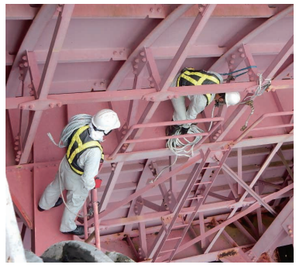
1 自動運転実証実験
2 パスタプロジェクト支援（集約型公共交通ターミナルの計画・設計）
3 新たなモビリティーサービスの導入検討（実証実験等）
4 合流支援情報提供システムの開発
5 ドライブレコーダー映像のAI解析による交通安全対策支援
6 AIによる自動車・自転車・歩行者の自動検出

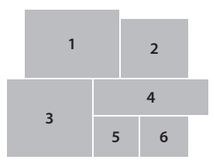
詳細はコチラ

港湾・河川・水工分野

水害から生命と財産を守るだけではなく、水の高度利用や環境保全を推進しています。

港湾・河川・水工事業は、災害から国民の生命と財産を守る意義だけではなく、水の高度利用、生活環境としての河川の環境保全などの観点があります。長大は、多様な側面から要素技術とノウハウを応用し、GIS（地理情報システム）等の技術を用いた想定氾濫計算をはじめ、良好な環境を保持するための多自然型河川整備、環境護岸設計などを実施。人を災害から守るだけでなく、生物多様性の保全のためにも様々な対策や工夫をしています。





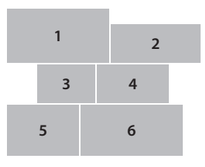
1 津波対策のための堤防嵩上げ検討（土肥港）
2 水門機能の回復に向けた修繕工法の検討・詳細設計（津蔵渕水門）
3 防波堤・護岸施設の耐震・耐津波診断（舞阪漁港）
4 津波防潮堤の基本設計（大井川港）
5 ダムゲート設備の目視点検、健全度調査および改良設計（福江ダム）
6 水門の耐震性能照査、補強対策工詳細設計（大谷川水門）

詳細はコチラ

建築分野

構造物から建築分野へ事業領域を拡大。
教育、医療・福祉を建築面でサポートしています。

幼稚園から大学までのあらゆる文教施設の建築に携わっています。近年は施設の長寿命化にも取り組み、人口減少社会における中長期的な整備計画の策定をサポートしています。医療福祉施設では、超高齢社会への対応、高品質の確保と低価格な工事の実現の両立が大切なポイントと考え設計に取り組んでいます。また、長大のコンサルティングネットワークを駆使し、トータルサポートにより様々な課題を解決しています。



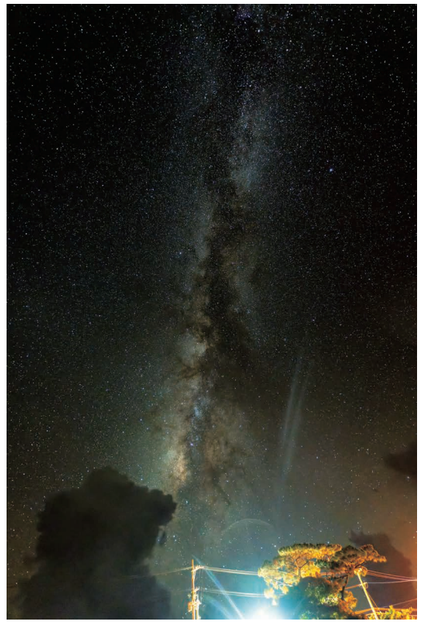
1 江戸川メディケア病院Ⅱ期棟設計監理
2 あつち葛飾クリニック設計監理
3 西宮市立南甲子園小学校建替設計
4 胎内市立中条すこやかこども園設計監理
5 回生堂病院増改修工事設計監理
6 福井大学学生交流センター設計監理

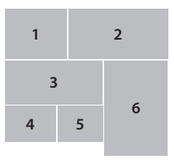
詳細はコチラ

環境分野

持続可能な社会、美しい地球をつくるために、
国内外で環境の保全と改善をサポートしています。

長大はこれまで、公共インフラを取り巻く様々な環境問題に対し、生活者視点から改善に努めてきました。「インフラ整備に環境保全と技術革新は不可欠」という使命のもと、問題の原因を追究し、必要な施策の立案・実施を技術的側面からサポート。環境質の現況調査をはじめ、環境影響予測・評価・保全計画など、様々な側面から最新の技術と知恵を結集し、騒音問題からグローバルな課題まで多岐にわたる事業を展開しています。





1 動物園バイオマス活用推進事業導入可能性調査
2 サクラマス産卵環境保全のための魚道整備効果検証
3 猛禽類のモニタリング画像解析
4 自然環境調査
5 騒音・振動調査
6 星空調査(西表島)

詳細はコチラ

エネルギー分野

東南アジアの小水力発電事業をベストプラクティスに、あらゆる再生可能エネルギー事業に挑戦しています。

日本国内で培った土木技術を活かし、東南アジアにおいて再生可能エネルギーの中でも安定的に電力を供給できる小水力エネルギーに焦点を当て、計画から運営・維持管理に至る各段階での技術コンサルティングを提供しています。さらに、その技術とノウハウを活用し、太陽光、地熱、風力、バイオマスといった石油代替エネルギーの開発にも着手。供給設備の導入や資金調達に関する支援や出資を伴う事業に参画し、持続可能な発電事業の実現、地域経済への貢献を目指しています。

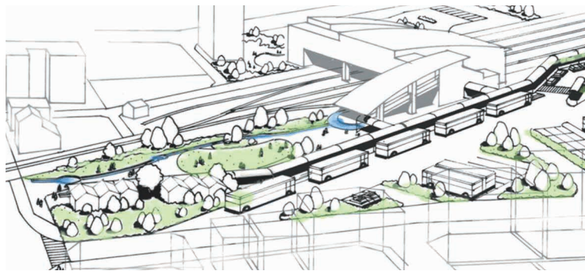
1 フィリピン国における水力発電事業
2 風力発電の事業化支援（事業計画策定及び環境影響評価）
3 地熱発電の事業化支援（温泉地の共生事例調査）
4 南部町木質バイオマスガス化発電所の運営
5 台湾における太陽光発電の事業化
6 アジア圏におけるごみ焼却発電事業化

詳細はコチラ

まちづくり分野

まちづくりの計画から施設運営、モビリティサービスの提供、維持管理までの総合サービスを提供し、これからも大きな成長を目指します。

現代のまちづくりは、行政主体の取り組みから、地域主体の取り組みや民間活力を活用する仕組みへと大きく変革しています。全国各地の様々な魅力を地域の方々と一緒に創出し、今後も、地方を元気にする地域創生に寄与することで、人々の暮らしを豊かにしていきます。また、これまでの道路交通計画やまちづくりに関するノウハウを活用し、交通弱者の移動手段を確保するための地域公共交通計画の立案や、オンデマンド交通などにも、引き続き力を入れていきます。



1 奈良学園大学三郷キャンパスの跡地活用支援
2 多言語観光案内板等の整備（和泉市）
3 デマンド交通の導入支援
4 駅前広場の再編、中心市街地の活性化支援
5 与那国町の国境交流結節点化支援
6 歩行空間環境整備のための社会実験（長谷寺門前町周辺地区）

詳細はコチラ

PPP/PFI分野

官民連携によるまちづくりを推進。
地域の活性化と発展に貢献しています。

官民が連携して公共サービスの提供を行うスキームであるPPP、その代表的な手法で公共事業に民間の資金や経営面・技術面のノウハウを活用するPFIが注目されています。長大は早くからPPP/PFI事業に参入、行政あるいは民間事業者を支援しています。例えば民間事業では、行政のPPP/PFIコンサルティング業務などで培ったノウハウを活かし、地元企業と共同で地域密着型のコンソーシアムを形成し、応募段階から事業終了まで、長期にわたり事業全体をマネジメントしています。

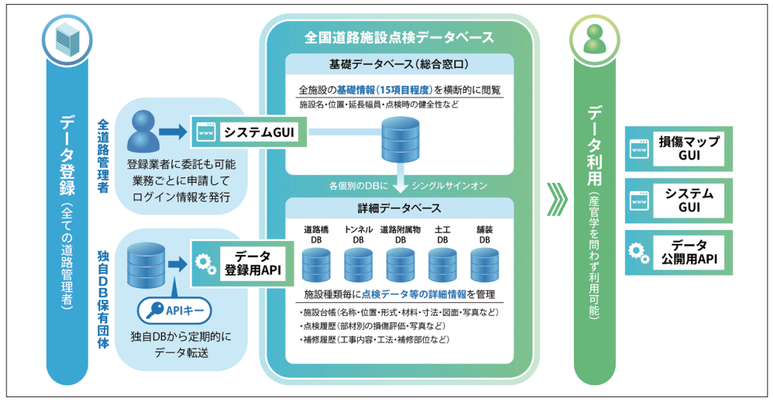
1 グランピング施設等の整備・運営(Park-PFI)
2 筑波大学附属病院のPFI事業化支援
3 三重県立ゆめドームうえのの財産売払い支援
4 「だて歴史の杜食育センター」の整備・運営(PFI)
5 山形大学米沢キャンパス学生寮の整備事業者選定支援
6 「道の駅 伊豆ゲートウェイ函南」の整備・運営(PFI)

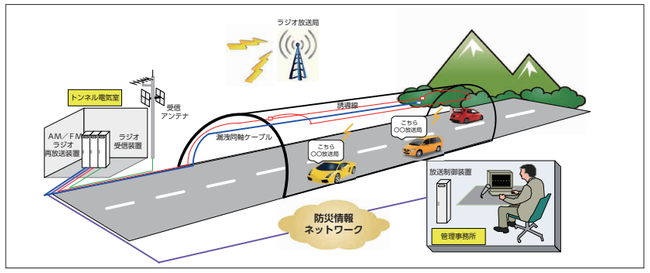
詳細はコチラ

情報・電気通信分野

最先端の情報技術を活用し、企業の業務改善提案や
国土の情報基盤整備に取り組んでいます。

創立以来、様々な分野でコンサルティングする中で、コンピュータを駆使した最先端の情報技術を提供してきました。単なるシステム構築支援ではなく、お客様の業務体系に適合するシステムの提案や、システム化を前提とした業務改善提案などの情報化コンサルティングを行っているのが大きな特徴です。長大は、建設コンサルタントとしての歴史を踏まえ、国土マネジメントという舞台で、光ネットワークや通信設備などの情報基盤整備に向けた調査計画・設計などに、積極的に取り組んでいきます。





1 全国道路施設点検データベースの検討・構築
2 VRを用いた道路付帯設備の設置シミュレーション
3 トンネル防災設備の設計
4 CCTVカメラ設備の設計
5 道路・トンネル照明設備の設計

詳細はコチラ

海外展開

国内での総合的な技術とノウハウを活かし、
世界各地のビッグプロジェクトに参画しています。

東南アジアをはじめ南米、ヨーロッパ、アフリカ、南アジアまで、世界各地のビッグプロジェクトに参画しています。橋梁分野では設計、施工監理のほか、老朽化橋梁の架け替え計画やコンストラクション・マネジメント（CM）業務などを行っています。鉄道分野は、大規模で沿線の自然環境や周辺住民、地域・都市の開発や経済への影響も大きいプロジェクトが多く、企画・計画から調査・設計・施工監理まで、国内で培った総合的な技術とノウハウを活かして事業展開しています。

1 ジャワ北幹線鉄道準高速化事業準備調査（インドネシア）
2 仁川大橋設計（韓国）
3 つばさ橋（ネアックルン橋）設計（カンボジア）
4 マングル橋及びアンツァパザナ橋改修計画（マダガスカル）
5 新マクタン橋建設プロジェクト（フィリピン）
6 ジャワ南線鉄道複線化プロジェクトに係るコンサルティング（インドネシア）

詳細はコチラ

新領域分野

50年後の未来を描く、
新たなインフラの開発に取り組んでいます。

長大は新たに、「イノベータ」の役割を担う組織を発足。50年後の未来を支える新たなインフラサービスの開発、新領域への進出や新ビジネスの創出など、様々な角度から長大事業のイノベーションに取り組んでいます。長大が培ってきたインフラ技術に、AIやIoT、そして量子コンピュータなど先端的なICTを組み合わせることで、サービスの高度化を図り、未来のまちづくりに資するインフラサービスを提供します。

スマートシティ・デジタル田園都市

デジタル技術を活用し、だれ一人とり残さない持続可能なまちづくりに取り組んでいます。その第一歩として長大が支援しデジタル田園都市国家構想Type3に採択された北海道更別村においては、自動運転車、高齢者を送迎する移送サービス(コンビニクル)、重たい商品を運ぶロボット配送等の導入支援を実施しています。

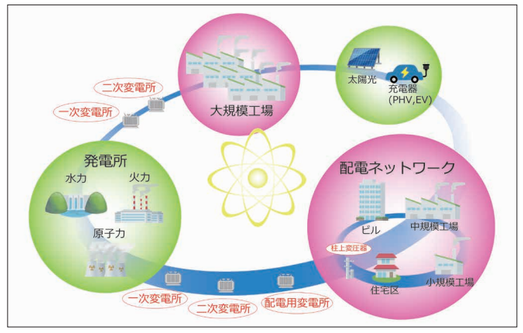
水上都市

地球温暖化による海面上昇や水害に対して、浮体構造物は根本的な課題解決をする可能性を秘めています。安全安心で持続的な生活基盤の一つとして、浮体構造物を利用した人工地盤を水上に浮かべ、都市を形成する「水上都市」の実現に取り組んでいます。

空飛ぶクルマ

空飛ぶクルマは、新たなモビリティとして世界各国で機体の開発や法整備の取り組みが進められています。当社の技術・知見を活かし、新たな空のモビリティ「空飛ぶクルマ」の実装に向け、制度設計整備等に取り組んでいます。

量子コンピュータ



量子コンピュータ（アニーリング方式）は、組み合わせ最適化を得意として期待されている次世代のコンピュータです。本技術を活用し、再生可能エネルギーを含む効率的な電力マネジメントや渋滞解消のための交通量配分等の様々な社会課題解決に取り組んでいます。

詳細はコチラ

事業によって人々の生活や社会に貢献することで、企業価値の向上と持続的成長を目指します。

事業によって社会課題の解決に貢献することで、経済的価値と社会的価値をともに創出する。それが、長大の目指すあるべき姿です。持続可能な社会を実現するための環境への取り組みや社会の仕組みづくり。これからの時代にふさわしいまちの創生、発展途上国など世界への貢献。こうした活動を通じて、世の中に真に必要とされる企業でありたいと考えています。

CSV

長大はCSRに取り組む一方で、経済的価値と社会的価値の双方を追求する活動こそが企業経営の本質とする「CSV(共通価値の創造)」を推進し、事業活動に取り入れています。新たな価値創造に向けた長大の挑戦です。

SDGsへの対応

私たちが世界中でインフラを手がけている最大の目的は、機会の平等をつくり、貧富の差をなくし、平和をもたらすことにあります。長大は、持続可能な世界を実現するために、国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の17の目標すべてを事業領域の中に組み込み、その達成に向けコミットしていきます。

サスティナビリティへの取り組み

サステナビリティとは、「社会の持続可能性に配慮した経営」のことです。国土強靭化、自然環境の保全、少子高齢化対応、持続可能な新エネルギーの導入などの外部環境への対応から働き方改革など社会的な要請まで。長大は、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)のいわゆる「ESG」の視点で、持続可能な社会の実現を目指していきます。

働く環境づくり～多様な働き方ができる企業へ

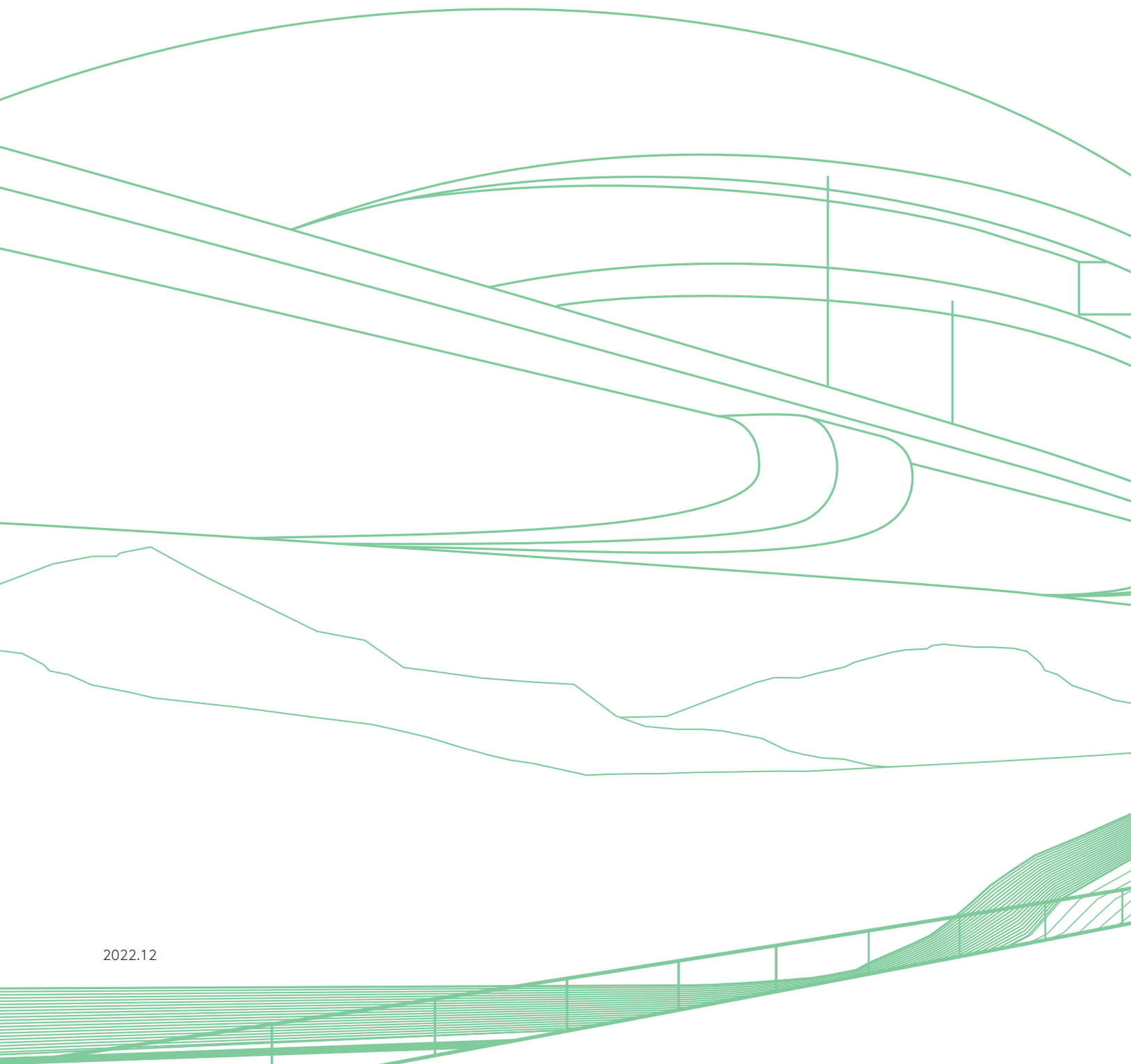
社員の属性や働く条件の違いを受け入れるダイバーシティや女性の活躍促進、長時間労働の解消、安心して仕事を続けてもらうためのワークライフバランスなど、働きやすい環境を整備。性別や人種、年齢の違いにとらわれない企業、社会の実現を目指しています。

CSR

長大の本業そのものが社会貢献にもつながるため、私たちの社会貢献活動は、事業自体あるいは事業に関連した活動が中心となっています。また、日本全国の拠点で事業を展開するなかで、地域ごとに様々な社会貢献活動を実施しています。地元の皆さまとともに、何かできることはないか、お役に立てることはないか。そんな想いをカタチにしようと、社員が自ら考え、行動しています。

詳細はコチラ

株式会社　長大
本社経営センター
〒103-0014 東京都中央区蛎殻町一丁目20番4号
TEL:03-3639-3301
https://www.chodai.co.jp/



2022.12